

HP Operations Orchestration

Windows および Linux オペレーティングシステム 向け

コンテンツパックバージョン 13

HP 00 ソフトウェアバージョン CP13 (9.x) 向け

リリースノート

ドキュメントリリース日: 2013 年 12 月

ソフトウェアリリース日: 2013 年 12 月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Microsoft® and Windows® are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.

UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

This product includes an interface of the 'zlib' general purpose compression library, which is Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。 <http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。 <http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品 サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポート オンラインWebサイトを参照してください。 <http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやTILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

リリースノート	1
目次	3
概要	4
新機能	5
サポートされているバージョン	5
OO Content Pack 13 のドキュメント	6
OO Content Pack 13 のインストール	7
HP Live Network Connector を使用した OO Content Pack 13 のインストール	7
OO Content Pack 13 の手動インストール	8
ローカル Central Server への OO Content Pack 13 のインストール	8
Windows	8
Linux	9
リモート Central Server への OO Content Pack 13 のインストール	11
Windows	11
Linux	11
既知の問題	13
修正された不具合	19

概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration Content Pack 13 で行われた変更の概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。これは英語版と日本語版のリリースです。

OO Content Pack 13 は累積的なコンテンツパックであり、リポジトリとRAS が更新されます。この更新でオペレーションやフローが削除されることはありません。パッチで行われるのは、特定のコンテンツの場所の追加、修正、変更だけです。

新機能

サポートされているバージョン

- HP OpenStack 統合バージョンの Grizzly 2013.1 と Havana 2013.2 のサポートが追加されました。
- HP Application Lifecycle Management (ALM) 統合バージョン 11.52 のサポートが追加されました。
- HP Arcsight 統合バージョン 6.0c のサポートが追加されました。
- HP Continuous Delivery Automation (CDA) 統合バージョン 1.30 のサポートが追加されました。
- HP Live Network (LN) 統合バージョン 3.11 のサポートが追加されました。
- HP Load Runner (LR) 統合バージョンの 11.6 と 12.0 のサポートが追加されました。
- HP Network Automation 統合バージョンの 7.6、7.60.2、9.0、9.10、9.11、および 9.2x のサポートが追加されました。
- HP Network Node Manager (NNMi) 統合バージョンの 9.11、9.20、9.21、9.22、および 9.23 のサポートが追加されました。
- HP Onboard Administrator 統合バージョン 3.71 のサポートが追加されました。
- HP Operations Manager (OM) 統合バージョンの 9.00 と 9.1x Unix のサポートが追加されました。
- HP Operations Manager I (OMi) 統合バージョン 9.23 のサポートが追加されました。
- HP Proliant iLO 統合バージョンの iLO 2、iLO 3、および iLO 4 のサポートが追加されました。
- SiteScope 統合バージョン 11.23 のサポートが追加されました。
- HP UCMDB 統合バージョン 10.1 のサポートが追加されました。
- VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere バージョン 5.5 のサポートが追加されました。

00 Content Pack 13 のドキュメント

OO Content Pack 13 のドキュメントセットには、次のドキュメントが含まれます。

- OpenStack Integration Guide
- Universal CMDB Integration Guide
- VMware Virtual Infrastructure and vSphere Integration Guide
- HP Operations Orchestration Integration Support Matrix
- HP Operations Orchestration Operations and Flows

OO Content Pack 13 のインストール

OO Content Pack 13 は、既存の OO プラットフォームバージョン 9.00.01 またはそれ以降にインストールする必要があります。

OO Content Pack 13 は、既存の Content Pack 12 コンテンツインストール上にインストールできます。コンテンツパックを適用する前に、すべてのコンテンツをチェックインする必要があります。

OO 9.00 プラットフォームリリースのアップグレードまたは新規インストールの後で、OO Content Pack 13 リリースをインストールする前に証明書の期限切れの問題が発生した場合は、この問題を解決するために、OO 9.02 プラットフォームパッチのリリースノートの説明に従って、OO 9.00 プラットフォームリリースに OO 9.02 プラットフォームパッチ(HP ソフトウェアサポートオンラインポータルで入手可能)を適用します。OO 9.02.0002 は OO 9.02 の必須パッチです。OO 9.02 のインストール時に必ずインストールしてください。

既存の OO 11 バージョンの上から OO Content Pack 13 をインストールした後で、OO 9.00 を再インストールした場合は、OO Content Pack 13 も再インストールする必要があります。

OO Content Pack 13 は手動でもインストールできますが、HP Live Network Connector を使用してインストールすることをお勧めします。

HP Live Network Connector を使用した OO Content Pack 13 のインストール

1. Live Network Connector (<https://hpln.hp.com/group/hp-live-network-connector>)を設定し、OO 更新ストリームのダウンロードを開始します。
2. Live Network Connector のインストール場所で、次のコマンドをターミナルに入力して [ENTER] を押します。

```
live-network-connector download
```

3. 同じ場所で、次のコマンドをターミナルに入力して [ENTER] を押します。

```
live-network-connector import
```

4. OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

詳細については、『HP Live Network connector User Guide』を参照してください。

メモ: 以下の手順の実行中に RAS の更新エラーが表示された場合は、インストール手順をやり直してください。

OO Content Pack 13 の手動インストール

OO Content Pack 13 をインストールするには、Java 6 を使用する必要があります。OO に付属する Java JRE (<OO_HOME>/jre1.6 フォルダ) を使用することをお勧めします。

OO Content Pack 13 を手動でインストールする場合、次のことができます。

- ローカル Central Server にインストールする。
- リモート Central Server にインストールする。

ローカル Central Server への OO Content Pack 13 のインストール

Windows

1. Studio を終了し、Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、[Operations Orchestration Community] をクリックしてログインします。
3. 左側の [Operations Orchestration Content Packs] をクリックします。[Operations Orchestration Content Packs] ボックスで、[Content] をクリックします。[HP Operations Orchestration 9.00] をクリックし、[HP Operations Orchestration Content Pack 13] に移動します。
4. OO Content Pack 13 のインストーラー `OO_Content_Pack_13_Installer.jar` を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. [スタート] メニューをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
6. [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスで、「cmd」と入力して [OK] をクリックします。
7. JVM ディレクトリ内の bin サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード>
```

8. OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

メモ:

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで OO Content Pack 13 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。

- a. **[スタート]**メニューから、**[すべてのプログラム]**、**[アクセサリ]**の順に選択します。
 - b. **[コマンド プロンプト]**を右クリックし、**[管理者として実行]**オプションを選択します。
- Central のユーザー名にデフォルトの admin 以外を使用している場合は、上記手順の**ステップ 7**のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード>
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで OO Content Pack 13 をインストールする場合は、上記手順の**ステップ 7**で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード>
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralURL https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword
```

- オペレーションのバージョン間に競合があっても OO Content Pack 13 をインストールする場合は、上記手順の**ステップ 7**のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -forceInstall -centralPassword <Central のパスワード>
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -forceInstall -centralPassword mypassword
```

Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、**[Operations Orchestration Community]** をクリックしてログインします。
3. 左側の **[Operations Orchestration Content Packs]** をクリックします。**[Operations Orchestration Content Packs]** ボックスで、**[Content]** をクリックします。**[HP Operations Orchestration 9.00]** をクリックし、**[HP Operations Orchestration Content Pack 13]** に移動します。

- OO Content Pack 13 のインストーラー **OO_Content_Pack_13_Installer.jar** を探し、一時ディレクトリにコピーします。
- ターミナル**を開きます。
- JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが **PATH** 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス>
```

- OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

メモ:

- Central のユーザー名にデフォルトの **admin** 以外を使用している場合は、上記手順の**ステップ 6** のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス>
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword -home /root/OO_HOME
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで OO Content Pack 13 をインストールする場合は、上記手順の**ステップ 6** で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス>
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralURL https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword -home /root/OO_HOME
```

- オペレーションのバージョンの間に競合があっても OO Content Pack 13 をインストールする場合は、上記手順の**ステップ 6** のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -forceInstall -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス>
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -forceInstall -centralPassword mypassword -home /root/OO_HOME
```

リモート Central Server への OO Content Pack 13 のインストール

ローカルにインストールされた Central が必要です。

Windows

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、[Operations Orchestration Community] をクリックしてログインします。
3. 左側の [Operations Orchestration Content Packs] をクリックします。[Operations Orchestration Content Packs] ボックスで、[Content] をクリックします。[HP Operations Orchestration 9.00] をクリックし、[HP Operations Orchestration Content Pack 13] に移動します。
4. OO Content Pack 13 のインストーラー `OO_Content_Pack_13_Installer.jar` を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. [スタート] メニューをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
6. [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスで、「cmd」と入力して [OK] をクリックします。
7. JVM ディレクトリ内の bin サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード>
```

8. リモート OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

メモ:

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで OO Content Pack 13 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
 - a. [スタート] メニューから、[すべてのプログラム]、[アクセサリ] の順に選択します。
 - b. [コマンド プロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] オプションを選択します。

Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、[Operations Orchestration Community] をクリックしてログインします。

3. 左側の **[Operations Orchestration Content Packs]** をクリックします。 **[Operations Orchestration Content Packs]** ボックスで、 **[Content]** をクリックします。 **[HP Operations Orchestration 9.00]** をクリックし、 [HP Operations Orchestration Content Pack 12] に移動します。
4. OO Content Pack 13 のインストーラー **OO_Content_Pack_13_Installer.jar** を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. **ターミナル**を開きます。
6. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。 **cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。


```
java -jar OO_Content_Pack_13_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス>
```
7. リモート OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

既知の問題

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D85010	F5 統合	F5 統合 では、英数字以外のパスワードはサポートされません。これは、パスワードがHTML GET 文字列内に配置されるためです。英数字以外の文字を使用するとGET 文字列が無効になるため、英数字以外の文字はパスワードに使用できません。
QCCR1D131214	「UpdateAssignedTo」オペレーション	「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Network Node Manager/9.0/Incidents/UpdateAssignedTo」オペレーションが、例外 Cannot interrogate model を生成して失敗します。本来は、オペレーションは success を返し、assignTo の値は入力値として指定された値に変更されるはずですが。
QCCR1D132829	「Get」および「Put」オペレーション	「Library/Operations/Remote File Transfer/FTP/Get」および「Library/Operations/Remote File Transfer/FTP/Put」オペレーションは、type 入力に無効な値を指定しても正常に完了します。
QCCR1D135408	「Divide」オペレーション	「Library/Utility Operations/Math and Comparison/Simple Evaluators/Divider」オペレーションは、0 による除算が発生しても成功し、結果は無限大になります。オペレーションが修正され、除数が0かどうかを確認するようになりました。除数が0の場合、オペレーションは失敗します。
QCCR1D135409	「Divide」オペレーション	「Library/Utility Operations/Math and Comparison/Simple Evaluators/Divider」オペレーションを使用して0.0を0.0で割ると、オペレーションは BigInteger divide by 0 というメッセージを出して失敗します。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D13827 6	RepositorySync プラグインの includePaths の説明	「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/Repository」フォルダーの RepositorySync プラグインの includePaths (含めるパス)に関する説明は、もっとわかりやすくする必要があります。includePaths は、実際には OS のシステムストレージパスではなく、リポジトリのルートからの論理的オフセットを表しているためです。たとえば、My Ops Flows の下にあるすべてのフローを含めるには、入力 は Library/My Ops Flows とする必要があります。excludePaths (除外するパス)についても、これと同じ説明を適用する必要があります。
QCCR1D13828 2	「Set System Account」および「Set System Property」オペレーション	新しいシステムアカウントを作成してチェックインした場合に、システムアカウントのユーザー名とパスワードの値が空であると、どのフローでもこれらの値を使用できません。このため、「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/Set System Account」オペレーションを使用することで、OO フローを実行してシステムアカウント値をリアルタイムで作成することはできません。「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/Set System Property」オペレーションに関しても、同じ動作が見つかっています。
QCCR1D12139 1	Central が到達不能なプロキシの背後にある場合、RSflowinvoke が自動的に再試行する	
QCCR1D13829 9	「Base64 Decoder」オペレーション	「Library/Utility Operations/Base64 Decoder」オペレーションは、data 入力の値に無効な非 ASCII 文字列が含まれていても、characterSet 入力の値が ASCII または shift-JIS の場合は success を返します。本来ならオペレーションは失敗するはずですが。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D14567 6	「Schedule Flow」オペレーション	「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/Schedule Flow」オペレーションは、OO 9.03 に対してローカルリポジトリから実行すると失敗します。これは、スケジューラと Central の統合時に OO 9.03 で行われた変更によるものです。
QCCR1D14599 4	OO サンプルのセルフ統合	説明に記載されているように、「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/Flow Execution/Samples/Filter Flow Runs by Status」フローと「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/Flow Execution/Samples/Get Last Run Status」フローは、Central からのみ実行できません。Studio からは実行できません。ただし、Central ではフォルダーの場所 (Library/Integration など) が表示されません。 フローを実行するには、コマンドラインツール (JRSFlowInvoke.jar など) を使用する必要があります。あるいは、これらのフローをリポジトリ内の別の場所にコピーすれば、Central で実行することができます。
QCCR1D14969 8	「Redeploy Template」オペレーション	「Library/Integrations/Hewlett-Packard/SiteScope/9.x and 10.x and 11.00/Redeploy Template」オペレーションは、ターゲットパスが無効であると、NullPointerException を生成して失敗します。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D15031 6	「Get Application Versions」および「Get Applications」オペレーション	<p>「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/Application/Get Application Versions」オペレーションは、applicationId 入力を空のままにしておく と、NullPointerException を生成して失敗します。</p> <p>「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/Application/Get Applications」オペレーションは、filterBy に byApplicationId を割り当てて、value に不具合説明の値を割り当てると、NullPointerException を生成して失敗します。</p>
QCCR1D15070 9	「Read Test」フロー	<p>「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Application Lifecycle Management/Test Plan/Read Test」フローは、useLabels が true に設定されている場合と false に設定されている場合とで異なる結果を返します。</p>
QCCR1D15422 2	「Ant Script」フロー	<p>「Library/Operations/Ant/Ant Script」フローの timeout 入力値は、結果を返す場合に考慮されません。</p>
QCCR1D15572 6	「Trigger Deploying Topology To Realized Platform」オペレーション	<p>「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/Topology/Trigger Deploying Topology To Realized Platform」オペレーションは、deploymentName と deploymentSetId の各入力に無効な値を指定しても成功しますが、デプロイメントは CDA 側の NullPointerException で失敗します。</p>
QCCR1D15573 1	「Find Builds For Realized Topology」オペレーション	<p>「Library/Integrations/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/Topology/Find Builds For Realized Topology」オペレーションは、realizedTopologyId 入力に間違った値が指定されると、失敗するのではなく、結果を返さずに成功します。</p>

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D15579 6	「List Connectors」フロー	「Library/Integrations/Hewlett-Packard/ArcSight/Samples/List Connectors」サンプルフローは、シナリオがネガティブな場合にエラーメッセージを返しません。
QCCR1D15639 2	Windows のエラーメッセージ	ユーザー名とパスワードの入力が正しくない場合、「Library/Operations/File System/Windows Only」フォルダーのオペレーションと、 「Library/Operations/Operating Systems/Windows/Ping」および「Trace Route」オペレーションは、Windows 2012 と Windows 2008 R2 とで異なるエラーメッセージを表示します。
QCCR1D15709 0	vCloud のエラーメッセージ	vCloud 5.1.x および vCloud 1.5 サーバーは、vCloud 1.0 サーバーとは異なるエラーメッセージを返します。
QCCR1D15792 0	「Remove Datastore from Host」オペレーション	dataStore 入力に無効な値を指定して実行すると、 「Library/Integrations/VMware/VMware Virtual Infrastructure and vSphere/Host/Storage/Remove Datastore from Host」オペレーションは、vSphere 5.1 以前に対して使用された場合とは異なるメッセージを返します。
QCCR1D15903 2	SCVMM のエラーメッセージ	owner 入力に無効な値を指定して実行すると、 「Library/Integrations/Microsoft/System Center Virtual Machine Manager/Virtual Machine/Set Virtual Machine」、 「Library/Integrations/Microsoft/System Center Virtual Machine Manager/Hardware Profile/New Hardware Profile」、「Set Hardware Profile」の各フローは、SCVMM 2012 では SCVMM 2008 R2 とは異なるエラーメッセージを返します。
QCCR1D15923 6	SCVMM のエラーメッセージ	template、networkUtilization、cpuMax のいずれかの入力に無効な値を指定して実行すると、フローは、SCVMM 2012 では SCVMM 2008 R2 とは異なるエラーメッセージを返します。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D16623 4	iLo オペレーション「Eject Virtual Media」によって、Gen8 サーバー上でエラーが生成される	メディアが存在しない場合、 「/Library/Integrations/Hewlett-Packard/ProLiant iLO/Eject Virtual Media」オペレーションは、ProLiant BL460c Gen8 サーバー上でエラーになります。
QCCR8C5259	Excel オペレーション「Modify Cell」を変更することで、行と列の区切り文字を別の文字に定義できるようにするか、非推奨のオペレーション「Modify Excel Data」を修正して Content Pack 7 で動作するようにする	「Library/Operations/File System/Windows only/Excel」の下にある「Modify Cell」オペレーションは、現在のところ値に対する列の区切り文字として","のみを使用できます。 このオペレーションは、コンマを含むセルの内容を既存の Excel ファイルに書き込むことができません。 非推奨の Excel オペレーションは、列と行の区切り文字を指定できますが(例、コンマではなくセミコロン)、非推奨のオペレーション「Modify Excel Data」は、CP7 では指定できませんが、CP8 では指定できません (CP8 では Excel ファイルの行ごとに 1 文字書き込まれます)。
QCCR8C21437	OOTB オペレーション「Integrations/ Hewlett-Packard/ Operations Orchestrations/Repository/Set System Account」を使用し、入力を createNewAccount=True に設定すると、システムアカウントは作成されるが、ユーザー名とパスワードが空白のままになる	OOTB オペレーション「Integrations/Hewlett-Packard/Operations Orchestrations/Repository/Set System Account」を使用し、入力を createNewAccount=True に設定して、新しいシステムアカウントを作成すると、システムアカウントは作成されますが、ユーザー名とパスワードは入力されません。システムアカウントが既存のもので、入力が createNewAccount=False でない限り、ユーザー名とパスワードは入力されません。
QCCR8C21954	OpenStack:「Rebuild Server」フローが 10x で失敗する	メタデータ入力 (必須ではない) が指定されているかどうかに関わらず、フローは「Add Metadata」ステップで次のエラーメッセージを出力して失敗します。 SyntaxError: Unexpected token in object literal

修正された不具合

次の項目は、現在のソフトウェアリリースで修正済みです。修正された不具合の参照番号は、QCCR (Quality Center Change Request) ID です。

修正された不具合の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D150481	Excel オペレーション「Modify Cell」を変更して、異なる文字に対して行と列の区切り文字を定義できるようにするか、非推奨のオペレーション「Modify Excel Data」を修正して Content Pack 7 で動作するようにします。	
QCCR1D166234	iLo オペレーション「Eject Virtual Media」によって、Gen8 サーバー上でエラーが生成される	
QCCR1D169148	「Create Virtual Machine」オペレーションに対して NIC ポートグループを指定するための入力を追加する	「Create Virtual Machine」オペレーションは正しく動作しません。特定のネットワークまたは db ポートグループにバインドされた VM を作成できます。このようにすると、VM を許可されない管理ネットワーク上に作成できます。
QCCR1D170775	「String Comparator」の説明に関する問題を解決する	CP4 では、「Library/Email/Send Mail」オペレーションは、区切り文字としてコンマを使用していました。CP11では、これが変更され、オペレーションには "delimiter" という入力値があり、デフォルト値は ; になっています。この変更のため、「Send Mail」を使用する顧客フローは動作を停止します。
QCCR1D171779	OOTB オペレーション「Integrations/Hewlett-Packard/Operations Orchestrations/Repository/Set System Account」を使用し、入力を createNewAccount=True に設定すると、システムアカウントは作成されるが、ユーザー名とパスワードが空白のままになる。	
QCCR1D171780	Content Pack 11への更新後に、「/Library/Operation/HTTP Client」にある「HTTP Post」オペレーションが、無効な入力長で失敗する	

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D172406	「Import OVF」オペレーションの使用時に、ターゲット上に少なくとも1つのネットワークが存在しているものと誤って仮定される	
QCCR1D172407	「Library/Integrations/VMware/VMware Virtual Infrastructure and vSphere/Virtual Machines/Create Virtual Machine」オペレーション用に "thinProvision" 入力を追加して、シンプロビジョニングディスクとしての仮想ディスクの作成を可能にする。	
QCCR1D172408	サーバー上で Windows 認証の種類として "negotiate" と "ntlm" の両方が有効になっている場合、HTTP クライアントの NTLM 認証が失敗する	<p>説明 : SharePoint 2010 と統合するには、NTLM 認証が必須です。"Negotiate" と "NTLM" がプロバイダーとして設定されているため、OO では wsdl をインポートできません。All HTTP クライアントベースのすべてのオペレーションは、SharePoint サーバーと通信できません。</p> <p>修正 : NTLM エンジン、デフォルトの httpclient から JCIFSEngine に変更します。これには jcifs-1.3.17.jar が必要になります。</p>
QCCR1D172426	HTTP クライアントベースのオペレーションは、余分な文字を追加せずに、URL を正しく処理できる必要がある	<p>修正 : URL の構築方法を変更する修正プログラムによって修正されました。これにより、元のクエリはそのままになり、'queryNamesList' で指定したクエリパラメーターだけが追加されます ('queryNamesList' の空のパラメーターは引き続き name1=&name2= として追加されます)。</p>
QCCR1D172436	CP10 に更新後に、netNicType を変更しようとする、 「/Library/Integrations/VMware/VMware Virtual Infrastructure and vSphere/Virtual Machines/Configuration/Configure NIC on VM」オペレーションが失敗します。	
QCCR1D173789	VMware vSphere 5.5 のサポートを追加します。	

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D175304	「Send Mail」オペレーションのデフォルトの区切り文字が、9.04 から CP11 になって変更された	CP4 では、「Library/Email/Send Mail」オペレーションは、区切り文字としてコンマを使用していました。CP11では、これが変更され、オペレーションには "delimiter" という入力値があり、デフォルト値は ; になっています。 この変更のため、「Send Mail」を使用する顧客フローは動作を停止します。
QCCR1D175472	VMware オペレーションを追加するか、既存のオペレーションを変更して、仮想マシンの IP およびホスト名を変更できるようにする	
QCCR1D175863	HP Solutions: 一部の CDA オペレーションが https 接続をサポートしません。	
QCCR1D175706	VMware オペレーション「Get Guest Info」で NULL ポインター例外が発生する	「/Library/Integrations/VMware/VMware Virtual Infrastructure and vSphere/Guest/Get Guest Info」オペレーションの使用時に、VM が実行中でない場合 (Powerstate=poweredOff)、このオペレーションは NULL ポインター例外で失敗し、エラーメッセージを表示しません。
QCCR1D175707	「Create Virtual Machine」オペレーション用に "VM Version" を指定するための入力を追加する	
QCCR1D176014	SCSI コントローラーを変更するための新しい VMWare vCenter オペレーションを作成する	
QCCR1D176016	拡張要求: VMware オペレーションでの注釈の設定	

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C21914	「Send Mail」オペレーションのデフォルトの区切り文字が、9.04 からCP11 になって変更された	<p>過去のバージョンでは、「Library/Email/Send Mail」オペレーションは、区切り文字としてコンマを使用していました。CP11では、これが変更され、オペレーションには "delimiter" という入力値があり、デフォルト値は ; になっています。</p> <p>この変更のため、「Send Mail」を使用する顧客フローは動作を停止します。QCCR1D135788 で説明した修正プログラムのマージ中、以前に使用していたデフォルトの区切り文字 (コンマ,) は、セミコロン ; に切り替えられました。</p> <p>コンマ文字 (,) は、受信者フィールドで複数のアドレスを使用する場合に使用される文字です。</p>
QCCR8C21438	Content Pack 11への更新後に、「/Library/Operation/HTTP Client」にある「HTTP Post」オペレーションが、無効な入力長で失敗する。	Content Pack 11 のインストール後に、「/Library/Operation/HTTP Client」にある「HTTP Post」オペレーションを含むフローを実行すると、失敗してエラーメッセージが表示されます。

